

大型船舶接岸へ岸壁新設・安定化

ナカラ港開発Ⅰ・Ⅱ期工事は、モザンビーク政府が発表した有償円借款プロジェクト。2018年7月、23年10月に同国北部のナカラ港を開発し、港湾エリアを拡張。コンテナ専用ふ頭や港湾アクセス道路、上下水道、電気通信設備、構内鉄道といった既設港湾施設を再整備した。



設計はオリエンタルコンサルタルグループ、エコール、Edgar Camardoso Mucambique, PROMAN Cent Studios
新設岸壁の利用状況

ナカラ港開発Ⅰ・Ⅱ期工事 (モザンビーク)

Projectorsが担当。施工は五洋建設・東亜建設工業JVが担当した。プロジェクト概要は▽共通工、仮設工一式▽バイパス道路工1080m▽浚渫工と埋立工24万7000立方m▽汚染土遮断封じ込め工6000立方m▽コンテナヤード工7万3700平方m▽新設岸壁水深14m▽港湾アクセス道路拡張工、スキャナード道路5000平方m▽港湾メインゲート工6600平方m▽列車ターミナル工1万3600平方m▽各建築工(事務所棟、ゲート棟、変電所など)2490平方m▽設備工一式▽付帯工一式。

ナカラ港は、「ナカラ回廊」として同国北部からアフリカの内陸諸国を結ぶ国際物流ルートの玄関口になる。プロジェクトでは、既存港湾設備の再整備や将来のコンテナ取扱量増加に対応したさまざまな設備を新規に整備した。北ふ頭岸壁の増深(水深14m)やバイパス道路(延長約1km)の整備による港湾へのアクセス

完成した工事の全景



強化、浚渫土を再利用した埋め立てによるヤード拡張、汚染された浚渫土の処理施設などを建設した。

プロジェクトの特徴の一つが港の増深。新設岸壁を構築することで大型船舶が接岸できるよう再整備した。その際には増深浚渫のり面が接近する既設岸壁(重力式)の安定に影響しない対策が求められた。具体的には北端部の構造変更により不要となった鋼管矢板を利用し、既設岸壁前面に自立土留め壁を設置することで既設岸壁を安定させた。浚渫土を埋め立てに利用する際、汚染された一部の浚渫土は本邦技術である遮水鋼製壁を利用した汚染土密閉施設内で処理を施した。

